

科目名		吃音			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間	(1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕									
吃音および発話・発語の非流暢性についての理解を深める。									
〔授業全体の内容の概要〕									
吃音について理解し、それに対する評価法と治療・訓練の方法を学ぶ。									
〔講師の実務経験〕									
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕									
吃音は言語障害の範疇においても、得意な様相を示している。その特性を知り、状態を把握して言語聴覚士として適切な対応がとれる知識・技能の獲得を目指す。									
回数	講義内容								
1	吃音とは何か 吃音の症状やエピソード								
2	吃音の定義								
3	吃音発生のメカニズム								
4	吃症状（その1）								
5	〃 （その2） D A F 効果実験								
6	吃症状の特徴把握								
7	基本機能検査								
8	吃に関連する検査								
9	心理検査								
10	訓練の種類と理論的背景								
11	環境、調整								
12	間接的言語訓練								
13	直接的言語訓練								
14	メンタルリハーサル、自立訓練等								
15	吃音に関わるトピックス、セルフヘルプグループ等								
【 準備学習・時間外学習 】									
【 使用テキスト 】									
書籍名					著者名		出版社		
エビデンスに基づいた吃音支援入門					菊池 良和		学苑社		
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】									
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。									